

事務事業名	高齢者クラブ助成事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係	連絡先	335	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0101	地域の支えあい	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0101	地域の支えあい								
		実行計画	02	高齢者保健福祉計画（一般会計分）	0301	福祉的予防の推進と高齢者福祉センターの活用 の検討								
		実施の柱の名称												
予 算 事 業 名		高齢者クラブ助成事業			会計コード	01	款	03	項	01	目	04	事業	03
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		おおむね65歳以上の高齢者（本人の希望があれば60歳から加入可能）で組織する行政区単位の高齢者クラブ（以下単位高齢者クラブ）と、その連合体組織である地区高齢者クラブ連合会（市内5地区が対象）に対し補助金を交付する。また、単位高齢者クラブの活動については、実績に応じて県から補助がある。												
現状と背景 (どうして)		高齢者クラブは、高齢者自らが組織し、社会奉仕活動や教養講座等を開催するなかで、高齢者同志が互いに交流し、生きがいを高め、健全で豊かな老後の生活を送るために活動する組織である。それらの活動に対して、財政的な援助を目的として、補助金を交付し支援する。												
目的	受益者 (誰のために)	高齢者クラブに加入する高齢者												
	対象 (直接働きかける)	行政区単位の高齢者クラブおよび地区高齢者クラブ連合会												
留意 図 (どんな状態にしたいか)	意	社会奉仕活動や教養講座等、高齢者の生きがいを高めるために行う高齢者クラブの各種活動等の取り組みが活性化される。												
	図	単位高齢者クラブと地区高齢者クラブ連合会へ、単位高齢者クラブ（地区高齢者クラブ連合会）補助金交付基準に基づき補助金を交付する。												
手段・方法 (どうやって)														
評 価 指 標 の 作 成	活動 指 標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		1	補助金交付団体数	補助金交付高齢者クラブ数	団体	補助金が交付された高齢者クラブ数（実績値）				100				
		2	単位高齢者クラブ会員数の増加	高齢者クラブ会員数	人	高齢者クラブ会員数				7,500				
	3													
	変更履歴													
	成果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		1	単位高齢者クラブでの活動が増える	高齢者クラブ活動回数	回	単位高齢者クラブの活動数（計画数）				3,000				
		2												
	変更履歴													

実 施 状 況 （ ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	4,268,986	4,195,820	4,233,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	1,524,000	1,524,000	1,524,000			
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	2,744,986	2,671,820	2,709,000			
	活動 指 標	補助金交付高齢者クラブ数	目標	60	60	60		
			実績	57	57			
達成率		%	95.00	95.00	-	-	-	
高齢者クラブ会員数		目標	7,500	7,500	7,500			
		実績	7,232	7,072				
達成率		%	96.43	94.29	-	-	-	
-	目標	-						
	実績	-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果 指 標	高齢者クラブ活動回数	目標	3,000	3,000	3,000			
		実績	2,981	3,034				
	達成率	%	99.37	101.13	-	-	-	
	-	目標	-					
実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考								

事務事業名	高齢者クラブ助成事業		事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係		連絡先	335	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標	活動回数は昨年度と比較して減少した。原因として、活動できる人員の高齢化による活動回数の減少や高齢者クラブ自体の減少が考えられる。	高齢者クラブの会員数は昨年度より減少しているが、活動回数は昨年度と同程度である。会員数は減少傾向であっても活動内容自体は変化がないことが伺える。			
総合評価	成果	活動回数は昨年度と比較して減少している。原因は会員の高齢化によるものが推測される。また、複数の高齢者クラブから、会長の担い手がおらず、クラブの存続・活動の継続が困難との意見も出ている。	高齢者クラブの会員数は昨年度より減少しているが、活動回数は昨年度と同程度を維持している。			
	課題	事業計画書や収支予算書等を提出された場合、単位高齢者クラブおよび地区高連に補助金交付を行う。今後対象クラブ数が減少していく可能性があり課題として挙げられる。	会員数は減少傾向であっても活動内容自体は変化がないことから、今後現会員への負担が増加し、活動の方向性の検討がなされ、活動の減少となる可能性があげられる。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	補助金交付高齢者クラブ数が目標値と乖離していることから高齢者クラブの活動について補助金があることを周知する必要がある。今後、高齢者クラブの会員の高齢化に伴う活動の減少や補助金交付対象となる高齢者クラブの解散による減少も課題となる可能性がある。	高齢者クラブ会員の高齢化による活動の減少や会員数の減少が課題となると考える。また、各地区では高齢者クラブ自体を維持することができなくなり、クラブを解散する可能性が考えられる。補助金の交付方法等の簡略化等検討が必要。			
作成担当者	両角 卓真	両角 卓真				
最終評価責任者	平澤 精一	平澤 精一				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年6月23日				

事務事業名	シルバー人材センター運営助成事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係	連絡先	335	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0101	地域の支えあい	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0101	地域の支えあい								
		実行計画	02	高齢者保健福祉計画（一般会計分）	0302	就業しやすい環境づくりの推進								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	シルバー人材センター運営助成事業				会計コード	01	款	03	項	01	目	04	事業	04
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	定年退職者や高齢退職者の就業機会の増大や職業生活の充実を図るため、定年退職者等の希望に応じた就業の機会を提供するシルバー人材センターに助成を行う。 茅野市、富士見町、原村の広域運営であり、富士見町、原村からの負担金がある。													
現状と背景 (どうして)	高齢者がまだまだ現役の社会人として自らの充実と社会参加のための場を確保するため、定年退職者等の就業機会の開拓や情報の収集・提供及び調査研究を行い、高齢者の仕事と生きがいにふさわしい条件と環境をつくる必要があるため。													
目的	受益者 (誰のために)	公益社団法人 茅野広域シルバー人材センター												
	対象 (直接働きかける)	公益社団法人 茅野広域シルバー人材センター												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	高齢者がシルバー人材センターの会員となり、センターで行われる無料の職業紹介事業等を通じ、就業の機会が確保され、高齢者の生きがいの充実と社会参加が図られる。												
手段・方法 (どうやって)	公益社団法人 茅野広域シルバー人材センター													
	行政が活動することで作り出すもの													
評価 指標 の 作 成	活動 指標	1	シルバー人材センター会員	会員数	人	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		2												
		3												
	変更 履歴													
	成果 指標	成果・効果は何？			指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値						
		1	シルバー人材センターへの受注が増える	受注件数	件	シルバー人材センターの受注述べ件数（毎年度3月末）	3,500							
2		高齢者の就業につながる	就業人数	人	登録会員のうち実際に就労についた者の実人数（毎年度3月末）	590								
変更 履歴														

実 施 状 況 （ D O ）	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	12,621,000	12,621,000	12,621,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	活 動 指 標	会員数	目標	人	700	700	700		
			実績	人	642	649			
		達成率	%	91.71	92.71	-	-	-	
		-	目標	-					
			実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-	
		-	目標	-					
			実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-	
		成 果 指 標	受注件数	目標	件	3,500	3,500	3,500	
実績	件			3,608	3,224				
達成率	%		103.09	92.11	-	-	-		
就業人数	目標		人	590	590	590			
	実績	人	572	549					
達成率	%	96.95	93.05	-	-	-			
備 考									

事務事業名	シルバー人材センター運営助成事業	事業期間	~	年度	係内番号	04
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係	連絡先	335	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （変果） （動指） （要標） （因分） （析）		定年退職者や高齢退職者の就業機会の増大や職業生活の充実の機会を提供するシルバー人材センターに助成を行った。	定年退職者や高齢退職者の就業機会の増大や職業生活の充実の機会を提供するシルバー人材センターに助成を行った。		
価値（CHECK）	成果	概ね目標値と実績が近い内容となった。	会員数及び就業人数は昨年度とほぼ同程度を維持しているが受注件数が減少している。			
	総合評価 課題	シルバー人材センターは法律で位置づけられた組織であり、補助金についても国の基準がある。茅野市としては国の基準に対応していく方向だが、富士見町、原村と協議しながら検討していく。	シルバー人材センターは法律で位置づけられた組織であり、補助金についても国の基準がある。茅野市としては国の基準に対応していく方向だが、富士見町、原村と協議しながら検討していく。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容 及び 策 び 容	補助金の交付目的の一つはシルバー人材センターの自立促進であり、また配分金からもシルバー人材センターへの運営費の補助を無くすことは難しい。	補助金の交付目的の一つはシルバー人材センターの自立促進であり、また配分金があることからシルバー人材センターへの運営費の補助を無くすことは難しい。			
作成担当者	両角 卓真	両角 卓真				
最終評価責任者	平澤 精一	平澤 精一				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年6月23日				

事務事業名	老人いきがい対策事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係	連絡先	335	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	02	高齢者保健福祉計画（一般会計分）	0301	福祉的予防の推進と高齢者福祉センターの活用 の検討								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	老人いきがい対策事業				会計コード	01	款	03	項	01	目	04	事業	02
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	高齢者の長寿のお祝いとして88歳又は100歳に達した方、金婚のお祝いとして結婚50周年を迎えられたご夫婦の方にそれぞれお祝いの品を送ることにより、高齢者福祉への関心を高める。 高齢者の知識や経験、特技を生かして、趣味として制作した作品を展示することにより、老後の生きがいと、その質を高めるとともに、市民に対して広く高齢者福祉についての理解と関心を高める。													
現状と背景 (どうして)	高齢化の進展に伴い、要介護者の増加、介護期間の長期化、家族の扶養意識の低下など高齢者を取り巻く環境が変化している。長寿を祝うこと、高齢者作品展を開催することで、生きがいの増進、高齢者の相互交流の活発化を図り、高齢者の福祉まちづくりにつなげたい。													
目的 的 意 図 (どんな状態にしたいか)	対象 者 (誰のために)	住民基本台帳に登録されている者又は外国人登録がされている88歳又は100歳に達する方。 結婚50周年を迎えるご夫婦。高齢者（高齢者作品展において対象者は60歳以上の者）。												
	対象 象 (直接働きかける)	住民基本台帳に登録されている者又は外国人登録がされている88歳又は100歳に達する方。 結婚50周年を迎えるご夫婦。高齢者（高齢者作品展において対象者は60歳以上の者）。												
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	意 図	祝品を贈り、長寿や金婚を祝うこと、知識や経験、特技を生かした作品の発表の場を設けることにより、高齢者福祉についての理解と関心を高め、高齢者自らのいきがいと生活意欲の向上につなげる。												
	方 法	敬老祝品（満88歳の市民へは祝状と1万円のお買物券、満100歳の市民へは祝状と2万円のお買物券）は、敬老の日から10日間に、民生児童委員（88歳）、市理事者および市職員（100歳）により、祝品の贈呈を行う。金婚祝は、11月22日を基準に祝品贈呈式を開催し、祝品を贈呈する。高齢者作品展は作品を募集し、出品された作品を一般に公開発表する。												
評 価 指 標 の 作 成	活動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	敬老祝が受けていただく	敬老祝対象者	人	住民基本台帳から対象者数を把握	360							
		2	金婚祝を受けていただく	金婚祝申込者	組	該当者からの申込	120							
	成 果 指 標	3	高齢者作品展に出品をしていただく	出品者数	人	作品出品者数	40							
		変更履歴												
		成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	多くの対象者に敬老祝品（商品券）を使用していただく	商品券使用率	%	商品券精算額÷商品券配布額	100							
2	多くの高齢者に作品を出品していただく	前年比作品展出品者率	%	当年度の出品者数÷前年度の出品者数	120									
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	4,228,876	4,120,166	5,105,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	4,228,876	4,120,166	5,105,000			
	活動 指 標	敬老祝対象者	目標	人	360	360	361	
			実績		347	337		
			達成率	%	96.39	93.61	—	—
		金婚祝申込者	目標	組	100	100	110	
			実績		72	99		
			達成率	%	72.00	99.00	—	—
出品者数	目標	人	40	40	40			
	実績		29	26				
	達成率	%	72.50	65.00	—	—		
成 果 指 標	商品券使用率	目標	%	100	100	100		
		実績		90	87			
		達成率	%	90.00	87.00	—	—	
	前年比作品展出品者率	目標	%	120	120	120		
		実績		100	86			
		達成率	%	83.33	71.67	—	—	
備 考								

事務事業名	老人いきがい対策事業		事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	高齢者福祉係		連絡先	335	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果）	（変果）	商品券の使用率については、使用できる事業所の増加を商工会議所と協議していく。作品展出品者数は昨年度と比較し、同程度。	商品券の使用率については、使用できる事業所の増加を商工会議所と協議していく。作品展出品者数は昨年度と比較し、減少した。		
（価値）	（総合評価）	金婚祝については、対象者の結婚された年（昭和43年4月から昭和44年3月）が御柱年であり、申込組数は例年より少なかった。作品展の出品者数は広報ちのでの周知により昨年度と比較して同程度となった。	作品展の出品者数は昨年度と同様の内容にて周知したが、昨年度より減少した。敬老祝のお買物券については、使いにくいという意見が出ている反面利用率は9割程度を維持している。			
	（課題）	平成25年度以降、高齢者作品展への出品数が減少し続けていた。一人一点の出品と制限したこと、および、審査表彰を廃止したことが原因と考えられる。しかし、平成27年度から一人二点まで出品可としたため、引き続き周知を図りたい。	高齢者作品展の出品者数が減少しているため、引き続き周知を行い、高齢者の生きがいの場として周知を行う。			
（改革）	（翌々年度方向性）	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
（改善の方向性）	（改善の方向性）	毎年開催される作品展への出品を目的に創作活動を行っているという出品者もいるため、生きがいの一つにもなっていると考えられる。引き続き事業を継続し、周知を図る。	毎年開催される作品展への出品を目的に創作活動を行っているという出品者もいるため、生きがいの一つにもなっていると考えられる。引き続き事業を継続し、周知を図る。敬老祝にて配布している祝品（額縁）について「大きい」「重い」「飾れない」という意見が出された。祝品について適当なものを検討する。			
（改善の方向性）	（改善の方向性）	策び容				
作成担当者	両角 卓真		両角 卓真			
最終評価責任者	平澤 精一		平澤 精一			
最終評価年月日	2019年5月17日		2020年6月23日			